



第 118 号
北海道ポーランド文化協会 会誌「ポーレ」
2026.4.15



2026 《アンジェイ・ワイダの年》 生誕百年記念
ポーランド名作映画ビデオ鑑賞 & 交流会
『世代 Pokolenie』

巨匠アンジェイ・ワイダ監督の長編デビュー作
1955 | ポーランド | モノクロ | 83 分



2026.5/18 (月)

18:30 ~ 入場無料



〈第 119 回例会〉どなたもご参加歓迎 定員 40 人

札幌エルプラザ 4F 中研修室 (北 8 西 3)

参加方法 (予約推奨) ☎080-4071-0956 (安藤)

✉ hokkaidopolandca@gmail.com

アンジェイ・ワイダ: 抵抗三部作とポーランド派

ワイダは浮世絵など日本美術に感銘を受け芸術家を志した。第二次大戦中、対独レジスタンスに参加したのち、ウッチ映画大学を卒業。「ゲッター蜂起」の時期を描いた本作のほか、広島・長崎の原爆による死者とほぼ同数の犠牲者を出した「ワルシャワ蜂起」を描いた『地下水道』(1957)、戦後のポーランド社会で共産化に抵抗する闘士の末路を描いた『灰とダイヤモンド』(1958)の三大悲劇は後に「抵抗三部作」と呼ばれる名作である。

以後、アンジェイ・ムンク、イエジー・カヴァレロヴィチらと並んで、当時の映画界を席卷した「ポーランド派」の代表的存在となり、映画史に残る傑作群を生み出していった。

生誕百年を記念して、ポーランド議会の決定により、2026 年は《アンジェイ・ワイダの年》とされています

【物語】ドイツ占領下のポーランド。ワルシャワ郊外のプディという町に母と暮らすスタッフは仲間の青年達と、ドイツ軍の貨物列車から石炭を盗む仕事をやっていたが、ドイツ兵に見つかり仲間の一人が射殺される。

スタッフは、逃亡先の居酒屋で木工所で働くセクワという職人と知り合い、彼の工場に見習工として雇ってもらう。そこではヤシヨという青年が働いていた。夜間のカトリック系の学校に通いはじめたスタッフは、その帰り道、抵抗運動に勧誘のアジ演説をするドロタという女性に惹きつけられる。組織に入ったスタッフは、ヤシヨも誘うが彼は応じない。

数日後、製材所に材木を取りに行ったスタッフが訳もなくドイツ兵に殴られ、それに怒りを感じたヤシヨらは以前にスタッフが見つけたピストルを使って復

讐を企て敵を殺害する。ドロタらは非組織的だと非難し、ヤシヨはスタッフらから離れていった。

ワルシャワ・ゲッターのユダヤ人一掃を目的とする攻撃が開始されるが、ポーランド人はゲッターの戦闘を他人事として傍観していた。ゲッター絶滅を防ごうと出かけたセクワ達を救出しようとトラックに乗り込んだスタッフの班にヤシヨが参加し、セクワは救出されるが、悲劇が生じる。スタッフはドロタと一夜を共にするが、彼女はやがて…。スタッフは班のキャップとなり…。

本作は他の 2 作品に比べ、イタリア・ネオレアリズモの影響を強く受けている。ヤシヨは『灰とダイヤモンド』のマチェクに繋がる人物であり、反社会主義リアリズム的姿勢を感じさせる。

池田光良 (運営委員)

【お話：坂尻昌平氏】映画研究者、札幌大谷大学非常勤講師。共編著『ジャック・タチ』(1999 エクスクアイアマガジンジャパン)、『ジャック・タチの映画宇宙』(2003 同)、『世界映画大事典』(2008 日本図書センター)、『淡島千景～女優というプリズム』(2009 青弓社)、『渋谷実～巨匠にして異端』(2020 水声社)